

# 2021年度 教育活動等に対する園関係者評価

社会福祉法人愛の園福祉会  
第2幕張海浜保育園

## 1. 保育目標

すべての人は例外なしに「神によって創造された存在である」という理解に立って、神を愛し、自然を愛し、人間を尊ぶことが人間性の基礎であることの視点に立ち、以下のように基本方針と定め、これを実践し、具体化するために、乳幼児一人ひとりの主体性（自立性・自立心・自律性）を重んじ、社会性の芽生え（協調性・連帯性・責任意識）を育て、個性が伸びる創造性（興味・集中力・探求心）のある子どもを育成することを目標とする。

### 《基本方針》

- ①心の清い正直な人間・・・（良心教育）
- ②心の豊かな明るい人間・・・（情操教育）
- ③からだの丈夫な強い人間・・・（健康教育）
- ④動作の機敏な人間・・・（安全教育）

## 2. 本年度の重点課題

- ①職員が法人の理念や保育目標・方針を共通理解するための取り組みを行う
- ②災害事故防止対策についての取り組みを行う
- ③職員の人材確保・人材育成と定着化への取り組みについて行う
- ④保育園の取り組みの様子を地域に公開する
- ⑤安定した質の高い保育を支える職員の育成の取り組みを行う（キャリアアップ）

## 3. 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

（評価はS90点以上 A80～89点 B70～79点 C60～69点 D50～59点 E50点以下 ）

評価項目	具体的な取り組み	自己評価		園関係者評価委員会	
		評価	保育園としての反省と改善策	評価	意見
教育・保育方針	【支援が必要な子どもに対する適切な対応】		・毎日の朝礼でクラスより伝達事項の確認を行っている。時差出勤のため参加していない職員へはクラスノートや口頭で伝達を行い、共有している。	A	・担任以外の保育士も個々の園児のことをよく理解、把握していると感じ、小規模園の利点が活かされていると思う。
	・個々の子どもの発達の実態について職員間で共有する。園全体でその子どもの育ちを支援する。	B	担任だけでなく、他クラスの職員も必要に応じて子どもと一对一の個別の関わりを持つなど協力しあいながら保育を行えている。他クラスの子どもの対しても、職員間で情報共有が行われており、それぞれに適した対応が取れている。		
	・発達支援の研修や報告会を通し学び合う。	B	今年度は個別に支援が必要な子はいなかったが、発達支援員による研修を行い、学びの機会を持つことが出来た。今後は個別支援の必要な子どもと家庭を専門機関へ繋げていくための流れについて全職員が理解を深められるようにしたい。	A	・小学校へ上がる前の子どもの発達状況は家庭内で知っていることが限られているので、小学校に上がってから知って心の準備ができていない為に戸惑ってしまう保護者がいた。園から小学校に上がる前に専門機関やコミュニティを紹介してもらえると親からすると心の準備や対応ができる。 ・保育業務にプラスして専門機関との連携は大変だと思う。保育士に負担にならないようなシステムができるとよいと思う。
	【食育計画を立て実践する】	B	・コロナ対策ガイドラインをもとに感染対策に配慮し食事の座席や食事のとり方を都度変更した。その中でも食事が楽しめるような雰囲気を作るようにした。 意見を頂いて ・黙食の指導がしっかりできているように感じる。給食の話を家でも話していて、黙食でも食事を楽しめていると思う。話しながら食事をするだけでなく楽しい食事とは限らない ・食事の中では、しゃべることができなくてもおいしさを共感できることもあると思う。(杉森) ・給食の前に担任がメニュー伝えるなど、食の楽しみなどを感じられるようにできていると思う。(福嶋)	A	・給食を通しての素材や作られたもの等に興味を持てるように食育をしてくれたことに感謝している ・幕張では子どもの人数が多いこともあり、第2ほど行き届いていない部分もあるかもしれないが、その分栄養士との連携を努力している。感染対策という面で、保育者が問題を提示し、感染対策について話し合いを行い、できることから行っている。完全な黙食は難しい。濃厚接触者は食事、午睡の場面が多い。食事に長時間かかってしまって、会話をしていない状況でも濃厚接触者の認識となっている。いくら感染対策を心がけていても、市の認定で濃厚接触者とされてしまうこともあり、歯がゆい思いをしている
	・楽しく食事が出来る様に、環境を整え情緒的安定を図る。				
・各年齢発達に合わせた食育のねらい ・目標を理解する。	C	・各クラス栄養士と共に食事状況を共有し個別指導計画に反映させた。 ・特に乳児は子どもの成長・発達に個人差があるので食事についての話し合いは定期的に行っていきたい。	B	・離乳食では、連絡帳での家庭との連携が大変だと思う。栄養士と家庭、クラス担任の連携がとれていることに感謝している。	

評価項目	具体的な取り組み	自己評価		園関係者評価委員会	
		評価	保育園としての反省と改善策	評価	意見
特色のある保育の展開	【保育園の取り組みの様子を地域に公開する】	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度は園児募集のチラシを作成し、地域の方の利用の多い施設等への設置やInstagram開設を昨年2月よりスタートしたことにより園について知ってもらえる機会が増した。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>Instagramなど効果を検証する段階であると思う。目的を再確認してほしい。特殊な立地にあり、周囲に民家がない。地域にアピールをしていく必要がある。今後5年10年先を見通した園の運営を考えながら入園希望者を得られるようにする</li> <li>Instagramの活用◎、特にサッカーの投稿では、サッカーに興味のある人にも保育園のことを知ってもらえたのでは。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>選ばれる園になるために園での取り組みや情報を地域に公開する。</li> </ul>				
	【育児について相談できる機会を広げる】	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度はコロナ禍で中止になった親子で遊ぼうをzoom開催することが出来た。画面を通じてではあるが、保護者同士が顔を合わせることが出来た。</li> <li>職員もzoomなどデジタル関係に対する学びを深められたので、今後もうまく活用していきたい。</li> <li>行事などで保護者同士が直接会話する機会が減っている。保護者の持つ育児の悩みなどを共有できる手段を検討したい。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者同士のzoomでの関りは、初めまして同士の場合うまくいかないこともあると思うので、頃合いを見ながら進めていければよいかと思う。親子で遊ぼうはクリエイティブに運営してもらえてよかった。</li> <li>知らない保護者同士でのかかわりに抵抗がある保護者もいるので、保護者の関りを直接持つようなものではなく、顔を合わせられるようにしていき、そこから親同士の関わり合いを持てるようにしていければよいのでは。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者同士のつながりが深まるための方法について検討する。</li> </ul>					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育者との個人面談を取り入れる。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要に応じて面談を行っているが、日々のやり取りの中で相談を受けた際には、送迎時や連絡帳などで対応している。</li> </ul>	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>大きな問題がない限りは現状で問題なし</li> </ul>

評価項目	具体的な取り組み	自己評価		園関係者評価委員会	
		評価	保育園としての反省と改善策	評価	意見
災害事故防止対策	・消防計画に基づき消防・防災訓練を行う	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的に多様な想定で訓練を行うことが出来た。戸外活動中の避難訓練など様々な状況を想定した訓練を今後も続けていきたい。</li> <li>・AEDの使い方や救命法の研修を全職員が受けることが出来た。これらの研修を定期的に行っていきたい。</li> <li>・今年度は途中入職（派遣職員）の職員と実際に避難場所まで歩いて経路を確認することが出来ていないので、早急に確認を行う</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インスタに防災訓練の様子を載せて保護者の方に安心材料として見せられるようにするとよい。</li> <li>・防災訓練の際には子ども本人が防災頭巾をかぶる必要性などを理解することができていた。</li> </ul>
	・避難場所・避難経路・役割分担の明確化	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明確化されているが、実際の訓練では主体的に動けていないこともある。日ごろから防災意識を高めておくと共に、どの職員も率先して動けるようにしたい。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちも当事者意識を持って参加することができている。他方で、その時の出勤職員で担当対応が変わることもあろうと思うので臨機応変になると思うが、その場で、指揮を執ることができる職員がいるとよい。</li> </ul>
保護者との連携	【行事への参加】		<ul style="list-style-type: none"> <li>・早めに行事の予定を伝えたり参加しやすい日程の調整を行った。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めてクリスマス会を見ることができて、家でyoutubeを一緒に見ながら、意味を子ども自身が伝えてくれていた。遠方の親戚も見ることができた。</li> <li>・キリスト教保育に関して子どもの心に残って、大きくなってから理解することができると思う。</li> <li>・クラスだよりなどは、保護者の反応をもらうことができる。第三者評価を行って、変更したことなどの反応を教えてくれると嬉しい。</li> <li>・子どもが自分の参加した行事を客観的に見ることができるとはとても良いと思う。</li> </ul>
	・誕生参観や親子で遊ぼう・行事への参加を促し参加しやすい日程調整を行い懇談会の開催をする。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誕生日会後の懇談会を通して保護者と対話できる機会を設けた。昨年は行えなかった親子で遊ぼうをzoomで開催した。今後は保護者同士の交流が持てるような内容にしていきたい。</li> </ul>		
	【園だより・カリキュラムの工夫】		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の保育に関してはInstagramで伝えている。今年度はYouTubeで保育動画を配信し、より日ごろの様子を伝えるようにした。また、今年度はクリスマス祝会もzoomとYouTubeで公開し、キリスト教保育についても保護者に伝えることが出来た。</li> </ul>	A	
	・園の様子・園児の様子がわかるよう、保護者が読みやすく、読んでもらえるような紙面の工夫をする。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスだよりでは、園長・主任の確認を通し、読みやすい紙面レイアウトを心がけた。</li> </ul>		

評価項目	具体的な取り組み	自己評価		園関係者評価委員会	
		評価	保育園としての反省と改善策	評価	意見
保育者の質の向上	<p>【緊急連絡の工夫】</p> <p>・緊急連絡網の他、キッズリー（メール）で連絡事項を配信する。</p>	B	<p>・キッズリーも定着し、園からの伝達をタイムリーに知らせられるようになり、情報の共有がより確実に出来るようになってきた。確認通知など保護者に協力を求めるとともに、簡単、シンプルに使えるようにしていく。（用途の違うアプリケーションを複数使用することについて理解を深めながら使っていく。）</p>	B	<p>・研修について：新しい先生にこれまでの法人の保育を伝えることの難しさ（時間の確保・ワークライフバランス）→キャリアアップファイルを目指す先として提供していることはうれしい。アプリの活用では、デジタルの管理に長けている職員がいるので良いかと思うが、幕張では、一部の職員しかいない。園長不在時にも一定の職員が、操作方法や配信内容を理解し、運用ができるとよい。アプリの一本化は課題となっている。今後一本化できるよう目指していくのはデジタル委員会の課題。</p> <p>・アプリの一本化…できるとよいが、できていなくても不便はない、スマホに通知がきて、園からの連絡に気づけることは良い。ひとりの時間である通勤時の電車内でスマホで見ることができると助かる。</p> <p>・学校もアプリ活用していて、時間が作れた時に気軽に見ることができると良い。</p>
	<p>・法人キャリアアップに即した保育の実践が出来る様学びの場を持つ。</p>	C	<p>法人キャリアアップ研修もzoomでの開催が定着化し参加できる職員が増え、学びの機会が与えられている。また、法人で研修委員会を立ち上げ、保育の見直しや共通認識が出来るようになった。全体周知という面での課題はあるので努力していく。</p> <p>（研修委員会より）園内での聖書勉強会等、計画したと思うように行うことが出来なかった。法人キャリアアップ研修に参加が出来ない職員も同じように学べるよう計画を立て進めていきたい。</p> <p>キャリアアップのファイルをうまく活用できるように研修委員会で検討している。保育士一人ひとりが進んで内容の共通理解することが課題である。</p>	C	<p>・讚美歌練習：職員同士youtubeなどで聞くなどして時間を作ることができるとよいと思う。</p> <p>・言葉使いでは、意識を高く持ってくれているので良いと思う。言葉使いの良い職員が多いと思う。</p> <p>・新しい職員に伝える難しさはあると思うが、勤務時間内に時間を見つけて研修を行えるように計画をしていく。</p>

評価項目	具体的な取り組み	自己評価		園関係者評価委員会	
		評価	保育園としての反省と改善策	評価	意見
入園児募集	<p>【園の保育内容についてわかりやすく発信する】</p> <p>・ホームページを通して保育内容や行事を定期的に提示できるようにする。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Instagramを通してクラスの様子を日々配信している。</li> <li>・入園希望者や地域住民へ向け園の活動をタイムリーに発信していけるように引き続き心がける。また、Instagramに地域名や活動内容をハッシュタグに入れるなど地域の人々に届きやすいよう工夫していく。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選ばれる園になるために園での取り組みや情報を地域に公開する。の意見と同じ</li> </ul>
	<p>・園のリーフレットを市や区役所窓口等に常時設置する。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・役所窓口に着用するには至らなかったが、駅や見浜園に園児募集のチラシを設置して頂けた。</li> <li>・また園外散歩時に地域の方に配布できるよう各クラスが持参して散歩に出ているが結果に結びついていないため引き続き継続していく。</li> </ul>	A	特になし
危機管理	<p>【緊急時に対応できる行動計画を作る】</p> <p>・感染症・自己食物アレルギー発作に対する実践的研修を行う（年3回）</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策員会を法人で作成し、その時期ならではの流行病などに対する策を共有した。また、看護師との会議を行い、園での感染対策の見直し等も行い、感染症対策について職員で話し合った。嘔吐処理の実践、確認を行えるようにする。</li> </ul>	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染者、休園のない状況に結果が出ているのではないかと。防災の部分も記載の通りで十分ではないかと。</li> <li>・玩具など用途ごとに薬品を分けて消毒を行っていることが話からも感じ取れる。Aの上をつけてよい。</li> </ul>
	<p>・災害時の職員の勤務についての基準を作りマニュアル（連絡網）として明文化する。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明文化されているが共有が不足している様に見えるので、防災の日など期日を決めて再確認する機会を設けていく。</li> </ul>	B+	<ul style="list-style-type: none"> <li>・清潔感のある園内で、感染対策の徹底をしている印象が受けられる。自然災害など想定外のことも起きている。（台風、などの風害）不審者対策の強化など、あらゆる場面での状況対応を求められる。二方向避難に対する対応（外部からの侵入など、第二は避難経路が同方向を向いている。）</li> <li>・想定を超えたことを話し合っ検討していく必要がある。女性だけの職場になるので、不審者などどのような対応をとるべきか考えさせられる（杉森）</li> </ul>
	<p>・安否確認サービスアプリを利用した健康チェック体制を整えている。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の健康管理を併せ、緊急時対応用としてアプリを利用している。その他にも子どもの体調について継続した記録を保存している。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安否確認は、毎回メールが届き、忘れないので良い。対応しやすい。</li> </ul>

評価項目	具体的な取り組み	自己評価		園関係者評価委員会	
		評価	保育園としての反省と改善策	評価	意見
園経営全体の向上	【法人の理念や保育目標・方針を共通理解する】	B	・法人の理念や保育方針の読み合わせを行い、職員間で共通理解して職務、保育に携われる様にしている。	S	・子どもが保育者とのかわり得で学びを得ている。保育者一人一人が理念を理解して子どもにかかわってくれていると思う。 ・理解ができなくて自信がなくてBなのか？不安があるようならば、雇用形態の違う職員にも理解が行き届くように努力していく必要がある。
	・キリスト教精神に根ざし、三愛精神の基本理念のもと保育がおこなわれている。				
	・乳幼児一人ひとりの主体性（自立性・自立心・自律性）を重んじ、社会性の芽生え（協調性・連帯性・責任意識）を育て、個性が伸びる創造性（興味・集中力・探求心）のある子どもを育成することを目標とする。	B	・子どもの気持ちに寄り添い、ありのままの姿を受け止め応答的に関われる為にクラス間だけでなく、職員間での情報共有や意見交換を会議を通して行った。	S	・S評価でよいと思う、どの職員も子どもたちをよく見てくれている。 ・子どもの成長に合わせてかわり方を変えてくれていると思う。子ども一人一人に応じてくれていると思う。
	【働きがいのある職場作り】	C	・職員のモチベーション向上について法人で働きやすさ検討委員会を立ち上げた。グッドジョブカードの取り組みだけに関わらず、職員同士のコミュニケーションを密にし、働きやすい職場作りに努めていく。	B	・保育は子育てとの共同作業だと思うので、子どもから聞いた話を連絡帳に書くなど伝えていければよいと思う ・会社でも用いている。感謝をどう表すか、という観点で、定着していくとよいと思う。
	グッジョブカードを利用し、称賛文化と職員のモチベーション 向上に向けた取り組みをする。				
	【休暇の取りやすい環境を作る時間を意識した運営】	B	・超過勤務としてはないが、勤務時間内に業務終了する事に関しては個人差がある。週休2日制の定着ができたので、今後は年間を通して連休の取得ができる様にしていきたい。	B	・超過勤務がないのは本当か？（事務所は残業をしていることが多いのでは？） ・行事前には保護者の人数を制限して園内に入れるようにして、行事の準備を求められることもできるのではと思う。保護者のほうから協力できることもあると思う。 ・勤務の改善が、子どもたちとの日々の保育にかかわっていくと思うので、業務の改善を心掛けてほしい。 ・幕張では退勤時間後30分以内に帰れるように徹底している。園長が一番長くいるので、自分が帰れるようにしたい。
・年間を通して長期的に見通し、実質超過勤務なしを目標に効率をはかり生き生きした勤務を目指す。					

評価項目について：保育園の取り組みや労働環境の取り組みなど評価項目があるが、評価項目を精査して絞っていけるとよいのではないかと思います。今年度はこの部分を意識して・というように次年度に持ち越しなどできるとよいかと思う。（千葉様）

